

海外事務所だより

ソウル事務所

韓国地方行政研究院との 共同セミナー開催

ソウル事務所所長補佐 千葉 雄一郎(仙台市派遣)

2010クレア・クリラ共同セミナー ～日韓地方行財政制度比較研究

ソウル事務所では2009年12月に、韓国の地方自治に関する総合的な政策研究機関（政府系機関）である「韓国地方行政研究院（KRILA・クリラ）」と「協力及び情報交流に関する協約（MOU）」を締結し、共同で研究活動やシンポジウムの開催等を行っていくことに合意しました。

そして、2010年5月に第1回目の、6月には第2回目の「共同研究会」を開催し、9月には「2010クレア・クリラ共同セミナー」と題して、シンポジウムを開催しました。

ここでは、9月のセミナーの内容について報告します。



受付の様子

基調講演

「日本の地方分権の動向」

京都府 山田 啓二知事



山田京都府知事による基調講演

セミナーでは、まず京都府の山田啓二知事が基調講演を行いました。

山田知事は、日本全体の課題として、財政再建、地域間格差などの格差問題の是正、少子高齢化社会への対応、グローバル化・円高の進展による国内産業の空洞化対策などをあげ、また地方分権の課題および対策として、国・地方を通じた簡素で効率的な仕組みの構築による財政対策、地域の絆の再生によるソーシャルキャピタルの回復、超高齢化時代に対する医療福祉体制の構築、地域の個性と資源を活かした地域産業施策の展開をあげました。

そして地方分権の目指す方向として、「地方政

府の確立」と「地域主権の確立への移行」の2点を示しました。

- ・ 地方政府の確立…地方分権の課題に対して地方が自立し、地域に適した対応ができるように行政・財政を強化することにより、国の下請けではなく、「中央政府」に対する「地方政府」としての立場を確立する。
- ・ 地域主権の確立への移行…団体自治から住民自治へ転換することにより、住民の力を最大限に引き出すことのできる体制を確立する。

最後に山田知事は、「今後、真の改革を進めるためには、住民参加型の総合行政の確立が必要となる」として、基調講演を締めくくりました。

第1セッション 地方行政分野

発表者

韓国側 韓国地方行政研究院
キム・ビョングク研究団長
慶南大学行政警察学部
ソン・ビョンジュ教授
日本側 政策研究大学院大学
横道 清孝教授

続いて行われた第1セッションでは、韓国地方行政研究院のキム・ビョングク研究団長と慶南大学行政警察学部のソン・ビョンジュ教授が共同で「韓国の市郡統合事例分析と政策課題」と題して、発表を行いました。

そして自治体統合に関する提言として、

- ・ 地方行政体制改編は政治的合意形成がカギであるため、当事者間の利害得失調整など政治的な協力関係づくりが必要である
- ・ 中央政府と地方自治体間の総合協力的関係の維持…中央政府の統合維持およびインセンティブ制度の明確化、当該統合市の自主的独立に向けた努力が必須である
- ・ 統合以降の内部対立調整および安定化努力が必要である
- ・ 大都市地域では、今後の高齢化の進展を踏まえると、さらに効率的な地方行政が求められる

の5点をあげました。

日本側からは、政策研究大学院大学の横道清孝教授が「日本の市町村合併がもたらした具体的効果」について発表を行いました。横道教授は、ご自宅がある西東京市の事例を紹介しながら、予想以上の人口増加など合併がもたらす具体的な効果について紹介しました。

これに続く討論では、以下のような意見が出されました。

- ・ 山間地域では、行政が住民から遠くなりデメリットが大きいため、住民活動への支援が必要。
- ・ 統合により、昌原市や馬山市では10%の職員減効果があった。
- ・ 関係者が既得権を捨てて協力しあうことが必要になる。
- ・ これまでの統合の失敗原因としては、①郡守・郡議会の反対、②道の存在意義が危うくなること、③政府の支援がない、ことがあげられる。
- ・ 道の機能を中央に持ってくるのではなく、市郡に持っていくことで草の根民主主義が復活するのではないかな。
- ・ 形式的には合併で民主性は低下するが、実際は自治体が住民を見る目が厳しく、共同体としてのコミュニティが重要になる。



第1セッションの講師

第2セッション 地方財政分野

発表者

韓国側 釜山大学経済学科

チェ・ビョンホ教授

日本側 自治体国際化協会

木村 陽子理事長

第2セッションでは、釜山大学経済学科のチェ・ビョンホ教授が「韓国の人口停滞、高齢化と地方財政の課題」と題して、発表を行いました。

そして地方財政に関する提言として、

- より戦略的な対応方策が必要… 財政支出の効率性の増大
- 財政の移転には人口構造の変化を繊細に反映
- 地方消費税において、地方の努力が税収増につながる枠組づくり
- 人口構造変化による財政負担の拡大傾向の下では「自治団体の統合」は財政支出の効率性を高めるために重要

をあげました。

日本側からは、自治体国際化協会の木村陽子理事長が「地方自治体の財政健全化」について発表を行いました。木村理事長は夕張市の事例などをあげて、日本の自治体の財政健全化について、現在までの状況や今後の見通しを発表しました。

これに続く討論では、以下のような意見が出されました。

- 高齢化が進むと、財産税から消費税、所得税へシフトすることはやむをえない。韓国でも高齢化社会に向け地方消費税の役割が重要になってくるのではないか。
- 韓国のどこに住んでいても、各地域で必要な水準となる生活の質のレベルを基準化し、それから適切な地方への配分というものがどれくらいなのかを議論すべきである。
- 財政状況に関する資料の公開と、自治体の借入れに際して住民の許可を必要とするような方策も考えるべきではないか。
- 首長が住民のニーズに無限に応えようとして財政を圧迫している。住民に対し、財政との兼ね



第2セッションの講師

合いで可能なサービスの限界を提示すべきである。

- 自治体の財政破綻を未然に防ぐために、住民とともに議論していくことが重要だ。

セミナーを終えて

本セミナーには、日韓の行政職員や研究者、学生など、約300人が来場し、熱心にメモをとる姿などが見受けられました。日韓の地方自治に近年登場した「地方行政体制改編」、そして「地方財政の安定性確保」という新たな課題について議論した本セミナーは、両国の関係者にとって有意義なものになったことと思います。



会場の様子



海外生活 だより

ソウル事務所

韓国で人気のレジャー、登山

ソウル事務所所長補佐 武藤 晶子(福島県派遣)

日本では中高年層を中心に登山がブームとなっていますが、韓国でも登山は人気の高いレジャーの一つです。韓国は国土の70%以上が山岳や丘陵地帯で占められており、火山がほとんどないため標高の低い岩山が多く、最高峰は済州島にある漢拏山(ハルラサン1,950m)です。韓国本土の最高峰は智異山(チリサン1,916m)で、韓国南部にあります。このほかにも、韓国人の人気ナンバーワンである雪岳山(ソラクサン1,708m)など、各地に有名な山があります。近年は、日本への登山ツアーの人気も高まっており、韓国にはない2,000m級以上の山々や富士山へ登山する韓国人観光客も増えています。

ソウル近郊には800m前後の山々が多く、手軽にハイキングや登山を楽しめるうえ、地下鉄やバスで登山道の近くまで行くことができるため、週末ともなれば周辺の山は多くの登山客で賑わっています。韓国の多くの会社や地域では登山愛好会(山岳会)が結成されており、週末ごとに山に登ることも珍しくはありません。赴任する前から韓国の登山ブームについて話を聞いていたので、登山は赴任中にやってみたいことのひとつでした。

北漢山

韓国での記念すべき初登山は北漢山です。北漢山はソウル市北部と京畿道高陽市の境に位置し、白雲台(836m)、仁寿峰(810m)、萬景台(800m)の3つの峰の総称で、3つの峰が三角を描くように並んでいることから古くは三角山と呼ばれていました。山頂はソウル事務所のある光化門付近からも、景福宮・青瓦台の後ろにそびえる北岳山の横に見ることができます。また一帯は、1983年に



左端が碑峰(ビボン)、中央が紗帽岩(サモパウイ)

15番目の国立公園として指定されました。花崗岩でできた岩峰の間には数多くの溪流が流れ、1,300種もの動植物が生息するなど自然豊かな場所であり、四季を通じて自然に触れ合える場所として、年平均500万人が訪れる人気のスポットとなっています。「面積当たり最も多くの人々が訪れる国立公園」ということで、ギネス記録を持つほどの人気です。

いよいよ登山開始

事務所近くのバス停から登山口行きのバスに乗車すると、車内にはすでに多くの登山客が乗っています。登山口近くのバス停まで20分ほどの乗車でしたが、バス停に停車するごとに登山客は増えていき、降りる頃にはバスの乗客のほとんどが登山客となっていました。バスを降りてからも、周辺には続々と登山の恰好をした人たちが数多く集まり、韓国の登山人気を改めて感じました。

バス停から登山口までは、道沿いに登山用品店や食堂が並び、必要な道具などをその場で揃えることができます。私たちもバス停近くのお店で韓



バス停付近、登山客がどんどん集まってきます

国での登山に必須のキンパプ（韓国のりまき）を購入し、さっそく登山口へ向かいました。道のすぐ横を溪流が流れ、せせらぎの音を聞きながら登山を開始しました。登山道はきれいに管理されており、場所によっては階段や手すりが整備されるなど、とても登りやすくなっています。登りはじめは木々の中でしたが、次第に岩石が多い急な登りになりました。日本のなだらかな登山道に慣れていた私にはきつく感じられましたが、スイスイと登っている中高年の方も多く、普段から体力づくりの一環として山に登る韓国人の一端を垣間見ることができました。

私たちは10時過ぎに登りはじめましたが、すでに下山してくる人もいます。話によると、朝早くから登山をはじめ、1日に何カ所かの山に登る強者もいるとか！比較的低い山が多いソウルならではのようですが、それにしてもすごい体力です。

途中、何度かの休憩を挟みながら2時間ほどかけて登りました。登山中には、道のそばにある大きな岩の上で涼をとりながら昼寝をしている人、



城門跡、人気の休憩スポットです

伝統楽器の横笛を練習する人など、それぞれの方法で山を楽しんでいる人を見かけ、登山が身近なレジャーであることを実感しました。

登山の楽しみ

北漢山は古くはソウルを防衛するための山城でもあったため、尾根には城壁や城門が設置されています。城門の上には櫓が建っており、絶好の休憩ポイントとなっており、この日も多くの登山客で賑わっていました。韓国では登山時の昼食としてキンパプとマッコリが人気です。韓国では、登山ブームにつれて、マッコリの消費量も伸びているそうです。マッコリは価格が安く量も多いので、登山客に人気があるようです。

登山の楽しみといえば、四季折々の自然や頂上での眺望などはもちろんですが、下山後に飲むよく冷えたビール！という人も多いと思います。これは韓国でも一緒に、登山口からバス停までの道に並ぶお店には、登り終えた登山客たちがビールやマッコリを楽しんでいました。

*

赴任後、多くの方から登山の話をお聞きし、韓国での登山についての興味が高まっていました。実際に山に登ってみると、岩肌がむき出しになった雄大な景観や間近に見下ろすことのできるソウル市内の眺望などはとても素晴らしく、眼前に広がる山々の稜線と高層ビルの対比は都心部と自然が近いソウルならではのものだと感じました。

買い物やエステも有名ですが、韓国での登山はいかがでしょうか？



尾根からの眺め